

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500329		
法人名	有限会社 幸久の家		
事業所名	グループホーム 陽だまりの森(湯と里館)		
所在地	島根県大田市久利町久利691番地		
自己評価作成日	平成29年3月 14日	評価結果市町村受理日	平成29年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成29年4月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域周辺には小学校や保育園、老人会もあり、合同で運動会や花壇づくりなどの行事を行い、また、地域のお祭りなどの行事への参加を実施し、地域交流を図っている。
外部研修、内部勉強会、避難訓練などへの参加、実施をし、質の向上に努めている。
ご家族とは来所時や電話時に利用者様の状況報告をしたり、行事への参加をしていただいたりして、関係性を作っている。
食事については三食ホームで作っており、少しでも利用者様の好みや希望に沿ったものを提供できるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の静かな集落の中の施設として歴史があり、デイサービスやヘルパーステーション、居宅を隣接している。少子高齢化に人口減少も進みつつある地域だが、幼児から子供、お年寄りまで保育園、学校行事や老人クラブの活動での交流も盛んに行われている。奉仕作業への参加や地域での花壇づくりなど自治会の一員として加わっており、地域との繋がりは年々広がりつつあるように感じられた。利用者は重度の認知症や車いす利用者も多く外出面など制限が多いようだが、デイサービスと協力していろいろな行事への参加の機会を増やしたりと、職員数など限られた中での工夫が見られた。今年の3月に管理者等の異動があり、まだ慌ただしさを感じさせるが、全職員で協力し合いより充実した個別ケアを目指していただいたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議では理念の復唱を行い、意識できるよう心掛けている。また、実際のケアについてユニット会議では具体的に話し合っている。	”あなたらしく、自分らしく”というわかりやすい言葉になっている。新人職員の研修の際には職業倫理と共に話をするようにしている。毎月1回の管理者会議や職員会議でも取り上げ共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入をし、草刈りやごみ当番などの参加、同じ町内の市議員には運営推進委員になっていただき、会議に参加してもらっている。また、地域の小学校、保育園、老人会との交流も定期的にもっている。	小さい地域であり、小学校と地域の合同運動会に参加したり、老人会や保育所と一緒に花壇づくりを行ったりと、盛んに交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で市議員に活動内容などを伝えている程度にとどまっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、現在と今後の活動状況について報告している。会議でいただいた意見についてはユニットのリーダーにおろし、ユニット会議で検討している。	家族関係者の参加は多くはないが、市役所や地域からは地元の市議員の参加で開催されている。利用者状況や行事や研修等の活動状況の報告を行い、意見をj得ている。	できるだけ多くの関係者の参加で開催できるよう取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月に1度来所され、情報交換している。また、利用者様からの意見も聞きだしていただき、検討している。相談員は運営推進委員にもなっている。	介護保険の内容等不明な点などは問い合わせしたり、生活保護利用者もあり関係部署との情報交換を行ったりと、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状防犯目的で24時間施錠をしている状況である。ただし、利用者様が屋外に出たいときには開錠している。ユニットの会議では身体拘束に関わるものがあれば話し合っている。	障害者施設での事件から会社の指示で施錠をしている。非常口と玄関にはカメラを設置したりと防犯意識を高めている。虐待と合わせて外部研修に参加したり、内部でも具体例を上げて研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、また、法人内でも内部研修として年に一回開催しており、学ぶ機会を設けている。ユニットの会議では虐待に関わるものがあれば話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加をして、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問などあれば理解・納得できるように可能な限り説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。また、運営推進会議や電話連絡した際などに意見を聞く機会となっている。いただいた意見は必要であればユニット会議もしくは職員会議などで検討している。	家族関係者は県外者や高齢の方や兄弟のみの方が多く面会も難しいが、電話連絡をした際には意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらためて聞く場は設けていないが、現状職員の意見は挙がってきやすい状況だと感じている。挙がった意見はリーダーミーティングなどの会議で検討している。	職員から出た意見はリーダーがまとめユニット会議で検討するようにしている。以前は自己評価に合わせて個人面接を実施していたこともあり、今後また取り入れる意向。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝の朝礼で職員と顔を合わせ、職員の状況によっては話をする機会を設けている。意見があった時には都度検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダーや本人から状況を聞き取り、把握。各職員に適した外部・内部の研修をすすめ、受けやすいように勤務の調整などしている。新人職員にはマニュアルを作成し、育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH部会の勉強会に参加しており、そこで情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居となればアセスメントをしっかりと行い、職員におろし、事前に検討している。また、入居後も不安などあれば傾聴し、対応・検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にはご家族の意見・要望を確認している。来所時には現状の報告を行ったり、行事への参加を呼び掛けたりして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前見学の実施やアセスメントをもとに状況確認をして、事前に対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を作ったり、食べたり、できる限り一緒に作業することで共生意識を持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診対応は基本的にご家族としている。また、ご本人の誕生日にはご家族にも意見を求めて、計画している。ただし、実際に参加してもらえるご家族は少ない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容や理容についてはできる限りなじみのある場所に出かけている。時には外出をして地元のほうに行ったりもしている。定期的にご家族対応で自宅に外泊される方もおられる。	理美容については今までの行きつけを継続している。あまり多くはないが面会もあるためゆっくりと過ごせるよう配慮したり、お墓参りや外泊が続くように家族に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しなくても会話をされる利用者もおられる。他の利用者の下膳をする姿もあり、関係性が良い利用者もおられる。ただ、孤立してしまう利用者もおられるのも事実であるが、時折声をかけてくれる姿もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な取り組みはできていない。退去後相談などあれば可能な限り対応してはいきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で発言や行動から、難しい場合は以前の暮らしぶりから本人の意向に沿った支援をするようにしている。	重度化し意向を聞くことが難しい場合も多くあるが、面会時などに家族関係者の思いを聞き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人への聞き取りをして、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録として日々の状態を記録し、各職員が記録を見ることで把握している。ただし、すべての状態を完璧に記録に落としているかという判断が難しい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議という場へのご家族、本人の参加は実際難しいのが現状である。ただし、ご家族の意見を求めたいときは、来所時や電話で相談するようにしている。	モニタリングは6か月に1回はまとめるようにし、状態に変化があった場合は関係者で話し合い、計画の変更に繋げるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に勤務職員が記録している。現場に入る前には記録を見て勤務するようにしている。定期的にモニタリング、評価をし、必要があればプラン変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間も含め受診などの対応についてご家族の状況に応じて必要であれば付き添いや対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校、保育園、老人会と行事を行っている。定期的にホームで作成した雑巾を小学校、保育園に寄贈しに行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医についてはご家族、本人の希望に合わせている。病院によって往診、受診となっており、特変時にはご家族と相談し、上申を行い、主治医より指示をもらっている。	家族と一緒に受診する方もあるが、多くはかかりつけ医を継続し往診対応となっている。夜間や緊急時にも往診を受けられるようになっており、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的には主治医に上申し、指示をもらっている。また、法人内の看護師と相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし、入院中には状況確認を行っている。退院前にも状況確認を行い、受け入れ態勢を整えている。退院時には退院後気を付けることなど相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からの相談はできていない現状であるが、可能性がある段階で、ご家族、主治医と相談している。	できるだけ本人や家族の気持ちに添うよう、かかりつけ医の協力を得て対応を検討している。今までも希望でここで看取りをしたケースがあり、今後も重度化に向けた段階で話し合いの機会を持ちながら進めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練として定期的には行っていないが、急変時のマニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回、日中を想定した火災避難訓練をしている。GH内では夜間を想定した火災避難訓練を再開予定。自動通報装置により、地域の消防団員の方に連絡がいくようになっている。	年2回の避難訓練は実施しているが、今後は近くに川もあることから、火災だけでなく、自然災害等も含めてた訓練の必要性を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の精神状態などを見極め、対応している。ユニットのミーティングでは声掛けや、対応についても考えている。	利用者の尊厳を含めた接遇面の対応については、職員採用時のオリエンテーションで行うようにしている。ケアの中でのプライバシーの保護については、各ユニット会議で話をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示的になるような声掛けは控え、利用者様が選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはご本人の生活スタイルになるように支援しているが、状況によっては職員の都合となっている現状もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば馴染みの美容院に出かけるなどの対応をしている。居室や入浴時などひげをそられたり、外出時にはお化粧される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り食材の下ごしらえや、配膳、盛り付けなどできることは作業していただいている。介助が必要な方がおられるため、一緒に食事を食べることが難しい時が多い。	調理の際に出る音や臭いを感じることを大事にしたいと、3食献立をたて、作っている。下準備や盛り付けなど座ってできることを主にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり水分、食事量をチェックし、嗜好品などを提供し確保するよう努めている。必要に応じて介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の気持ちにも配慮しながら行っているが、毎食後は実施できていない。利用者の状態に合わせて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄を心掛けているが、本人の状態に合わせて、パッドなどの使用をしている。また、トイレの場所が認識できない可能性のある方には、Pトイレの設置などもしている。	紙パンツにパットの利用者が多く、時間や動きを見ながら促すようにしている。紙パンツのゴムのかゆみを訴える方があり、布パンツに替える等、個々にあった対応をとっている。尿量に合わせてパットを使い分け不快感が少なく済むよう考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的の下剤を服用されている方も多いのは現状であるが、乳製品を取り入れたり、水分の確保、歩行機会を作ったりして改善を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があった場合は希望に沿うようにしている。ただし、職員体制により、時間が限定されてしまう方がおられるのも事実である。	多くの方は週に2~3回意向を聞きながら促すようにしているが、お風呂好きの方や失敗のある方などは、毎日入浴する場合もある。重度で車いす使用の方は2人介助で浴槽に入れるようにしたり、シャワー浴や清拭等その時の状況に合わせた対応をとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望により寝巻への更衣をしたり、空調管理など行っている。また、無理に入眠を促さず、会話をしたり、テレビを見たりしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬の効能、副作用を服薬表としてまとめて管理している。症状に変化があれば各主治医に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主な活動としては洗濯物・新聞を畳んだり、調理などの作業をしていただいたり、時には車で出かけたりしている。ただ、まだできることはあるのではと感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればそれに沿うようにしている。散歩にでたり、ご家族と一緒に掛かけたりする方もおられる。具体的な地域の方の協力は現状ない。	重度で車いす使用者も多い為、外出の機会を多く持つことは現状ではできていないが、職員の勤務調整をして花見に出かけるよう計画。施設回りの散歩など外気に触れたり、景色を楽しめるよう少人数ずつの対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に自己管理がいけないという制限は設けていない。ご自身で管理されている方もおられる。ご自身で支払いを行う場面も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおられ、ご家族と話をされている。手紙のやりとりはしていないのが現状。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやお風呂、各居室(一部)には表示をしている。空調管理については利用者様に聞いたりしながら管理している。加湿器も設置している。季節感が出るような飾りなども掲示しているが、季節外れのものも出ていることがあるのも事実である。	県道が近いが車の騒音等はあまり感じない。ホールからは中庭が見え明るく、草木から季節を感じることができる。中央のホールで日中の比較的長い時間を過ごす方が多いため、温度や湿度に配慮している。特に冬場は寒い地域の為、掃出しの窓の下の部分には冷気対策の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などは各利用者ごとに決めている。また、ソファの設置もしており、ゆっくりとテレビが見られるようなスペースを作っている。ホールでは自然と一部利用者が集まり、会話が生まれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望や本人の生活スタイルから必要であれば居室内には畳を敷いている。できる限りご本人のものを持ってきていただき、本人らしい居室を目指している。	以前から使用していた物の持ち込みは積極的に薦めているがあまり多くはない。利用者に合わせて畳やベッドにし、ポータブルなど動線を考慮して配置するようにして個々につろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に表示はしている。口腔ケアや洗濯などがしやすいように危険なものを除いては実施しやすいように心掛けている。		